

201 柳の下にいつもどじょうはいない

偶然うまくいった時と同じやり方をしても、いつもうまくいくとは限らないということ。

202 藪をつついて蛇を出す

余計なことをして、かえって損をしたり、災難にあったりする。

203 病は気から

病気は気持ち次第で、良くも悪くもなるということ。

204 よしの髓から天井をのぞく

自分の狭い知識や経験だけで、広い世界や大きな問題についてを判断しようとする。

205 寄らば大樹の陰

頼りにする相手を選ぶときには、できるだけ力のある人を選ぶんだ方がいいということ。

206 弱り目に祟り目

不運なことや災難が、何度も重なって起こることのたとえ。

207 来年のことを言えば鬼が笑う

将来のことはわからないので、あれこれ言っても仕方ないというたとえ。

208 楽あれば苦あり

世の中は楽しいことはかりではないので、楽しいことの後には、必ず苦しいことが来るということ。

209 楽は苦の種、苦は楽の種

楽をしていると後で苦勞することになり、逆に、苦勞をしておくと後で楽ができるということ。

210 類は友を呼ぶ

気の合う人や似ている人は、自然に集まって仲間になるものだという。

211 瑠璃も玻璃も照らせば光る

才能や素質のある人は、どこにいても目立つということ。

212 労多くして功少なし

苦勞が多いわりに効果が少なく、報われないこと。

213 ローマは一日にしてならず

長い時間と力をかけて初めて、大きなことを成し遂げることができるということ。

214 論語読みの論語知らず

書物をよく読んでいても、本質を理解していない。また、書物から得た知識があっても、実行が伴わない。

215 論より証拠

議論するよりも証拠を示したほうが、物事をすっきり解決することができる。

216 若い時の苦勞は買ってでもせよ

若い時に苦勞しておく、その経験が後で役に立つ。だから若い時には進んで苦勞したほうが良いということ。

217 渡る世間に鬼はない

世間には、思いやりのない冷たい人だけでなく、困った時に助けてくれる親切な人もいるということ。

218 笑う門には福来る

笑いが絶えない家は、自然と幸せが訪れる。また、どんなに辛い時もくじけずに笑っていれば、幸せがやってくる。

219 破れ鍋に綴じ蓋

どんな人にも、その人にぴったり合う相手がいるということ。また、そのような人と一緒になればうまくいく。

220 和をもって貴しとなす

他の人と仲よくやっていくことが、何よりも大切だということ。